

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100163		
法人名	有限会社ハンドツーハンド		
事業所名	グループホーム「ここあ」前橋		
所在地	群馬県前橋市朝倉町947-1		
自己評価作成日	令和2年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和2年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりと一人一人のペースで理念でもある「心地よい 心のかもった あったかケア」を基本として取り組んでいる。コミュニケーションを日々大切にし入居者様に寄り添いながら軽体操、ちぎり絵のレクリエーション活動を日課として活気のある生活を送れるよう努めています。医療面でも看護師を職員として配置。嘱託医の医師も24時間体制での連携を取れていますので家族も安心して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、毎月1回、外部講師による研修会を行っている。その他、月1回、会議に合わせて職員が交代で課題を考えた勉強会を行い、資質向上に取り組んでいる。利用者の重度化に伴い、事業所の協力医のもと、直近で3例の看取り対応をしており、看護師の職員によるアドバイスが申し送りノートなどを活用して行われ、身体介護においてのテープの貼り方など実践指導も行い、職員の支援に活かしている。また、家族の要望を押し量り、ペースト食は食材ごとに盛り付け、見た目を重視して利用者の食欲をそそぐような食事提供を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時理念を参照し日々職員間で共有している。利用者様が地域の一人として笑顔でその人らしく生活を送ってもらえるように取り組んでいる。	理念を毎朝の申し送りで唱和し、意識づけを図っている。事業所の頭文字をもとに分かり易い理念を掲げているが、その捉え方が個々の職員によって異なることを課題に考え、過去には理念に対する職員の介護観を記載してもらい共通認識を図ったこともある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者様の介護度も上がり地域の行事に参加できる事が少なくなりましたが今年度は夏祭りにさんかしています。毎回回覧板が回ってきており町内清掃に参加しました。	利用者の重度化に伴い、地域との交流の機会が少なくなっているが、今年は地域の夏祭りに2名の方が参加している。回覧板がまわり地域の情報を得て、道路清掃に職員が参加している。今後、利用者の状況変化に伴い、再び地域との交流が広がることを視野にいれ検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時見学の受け入れは行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催しています。参加メンバーも限られマンネリした会議になってはいますが市の職員からのアドバイスや意見をサービスに活かしています。	会議は2ヶ月に1回開催をしているが、家族の参加が難しい状況にある。開催案内や開催結果は事業所内に掲示し、家族の面会時に声をかけるなどしている。	事業所の取り組みなどが伝わる内容、また、参加メンバーが増えるような内容の企画などにより、活発な意見交換が行われることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の会議や研修に参加 運営推進会議などで実情やサービスの取り組みを伝えています。	市担当課に出向き、書類提出の質問の他、空き状況、生活保護について、その都度、相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部講師や身体拘束会議で身体拘束をしない理解を会社全体で図っている。実際に身体拘束や言葉の拘束は行っていない。3か月ごとに委員会で検討している。	身体拘束に関連する接遇などの研修に全職員が参加し、適正化委員会は管理者、主任が参加して職員に伝達している。ベッドからの転落などの危険がある場合には、ベッドの高さ調整や床に畳を敷き対応している。言葉による行動制限にも注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年会社主催の研修で外部講師を呼び職員の理解を深め業務に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に施設見学を行っています。契約時には家族に説明を行い納得していただいてから契約や解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に必ず利用者様の状況を伝えるようにしている。何でも話せるような雰囲気づくりを大切にしている。アンケートブックもあるがほぼ意見はない。	玄関には意見箱を設置している。家族とも長いつきあいになり、利用者のこと以外においても会話もする関係を築いており、そうしたなか直接的な意見ではなくても話のなかで家族の要望などを感じ取り、重度の方の食事提供について変更を行うなどしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や不満苦情を気軽に話せる関係作りをしている。代表者もホームへ足を運んで頂くことも多くなり意見は言いやすくなっている。	管理者は、月1回の会議や日頃の業務のなかで職員の意見を聞き、環境整備や利用者の席の配置などに活かしている。また、職員は年間の目標を定め、達成状況の報告や要望も提出できる。勉強会やレクリエーション・買い物など職員が分担で行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入している。代表者へ意見や希望を言える項目欄もあり反映できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部の研修を年間計画を立てて実施している。新人研修にはOJTを導入し実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加入しており会議や研修に参加している。過去ではあるがグループホームの交換研修の受け入れや派遣を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者様と面談し状況を把握し職員に情報を周知させている。入所後は早く馴染んで頂ける様に工夫をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族と面談や施設見学をして頂いている。家族から状況や要望を聞いて日々の過ごし方を考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際に必要なとする支援の把握に努めている。他のサービスを現在は利用していないが病院などはなじみの場所への通院も可能。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的にサービスを提供するのではなく日常の中で必要な事も利用者様と一緒に学び学んだりする関係も築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談した時や必要時には状況の連絡を行っている。本人の希望に沿える様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週家族の面会や自宅へ帰られる利用者様がいる。知人や友人の面会時にはゆっくり過ごして頂く様に配慮している。家族の介助で夕食を召し上がる利用者様もいる。	面会などの場合には、ホールや居室など状況に合わせて案内しており、再度、来訪してもらえるような雰囲気づくりに配慮している。重度化に伴い、これまでの関係性の継続が難しい状況のなかで、将棋を趣味としている方に将棋相手の方が訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話のきっかけを作ったりレクリエーションなどから利用者様が孤立しないようにしている。おやつの時など会話ができる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族の相談等に対応出来るように努めている。気兼ねなく来所して頂けるよう声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で何気なく思いや希望を聞いている。会話困難者が多いが意見を出し合い利用者様の思いを検討している。	言葉で表出できる人は少なく、声かけ時の様子や生活歴から推測し、職員間で話し合い支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴や暮らし方などを把握している。家族や医療機関に情報提供を依頼し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや体調観察を行っている。日々のケアを利用者の状況に合わせて行うように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月定例会時に担当者会議も行い本人や家族の意向、全体会議で話し合った結果をもとに作成している。変化があった場合は現状にあった計画に変更。	介護計画に基づいた記録及び支援を実践するため「ケア手順書」を作成している。月1回の会議では職員間で話し合い、計画作成担当者は、それをもとに介護計画に活かしている。	一人ひとりの具体的な支援目標について検討され、日々の支援や記録が介護計画に沿って行われるような取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子や気づいたことを介護記録に記入。会議等で情報を共有しながらケアをするよう努め介護計画の見直しに活かしている。ケア手順書を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況で柔軟に対応しようと努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交番に利用者表を提出しており何かあった場合でも対応していただけるよう要請。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先している。緊急な場合は事業所にかかりつけ医で受けられるよう支援している。身体状況など報告を行い医療機関との連携を計っている	本人、家族の希望のかかりつけ医の受診を支援し、入居時に協力医の24時間対応や往診対応について説明し、1名の方がこれまでのかかりつけ医への受診をしている。協力医・看護師職員との連携を行い、健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を職員で配置している。介護職との相談や嘱託医との連携で適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をした場合は早期退院出来るように情報交換や相談に努める。退院時にはスムーズに受け入れが出来るよう体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族が望みグループホームでも可能であればターミナルケアも実施する。利用者様だけでなく家族にも寄り添い支援する。主治医から家族への連絡も常時して頂けている。	重度化や終末期においては、常時の医療的処置を必要としない場合には対応しており、直近で3例の看取りを行っている。協力医による家族への説明や看護師職員による指導のもと、職員が安心して関われる体制を築き支援に活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の心肺蘇生やAEDの使い方は毎年の講習で習得している。今後も定期的に行っていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施。そのうち1回は夜間想定で行っている。近隣住民とは日ごろから交流があり協力をお願いしてある。	年2回、夜間想定も含め、出火場所を想定して避難訓練を実施している。夜間時は近隣の1軒に災害時の協力を依頼しており、昼間は法人の事業所に応援を依頼することを検討している。食品・飲水・毛布などを準備している。	災害対策においては、併設事業所との連携により、消防署立ち合いのもと、訓練の実施を検討されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の思いや気持ちを尊重した声掛けやケアを行っている。排泄時もプライバシーに配慮した対応を行っている。	年間の研修などで学び、入室時のノック・不要な肌の露出などに配慮している。呼称は名字にさんづけで行い、本人からの要望があればそれに応えている。申し送り時は、名前を伏せて行き、本人に気づかれないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で信頼関係を築き自己決定できる様に働きかけている。意思の難しい利用者が多いが表情や仕草で読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の希望や体調を考慮しペースにあった過ごし方が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師が訪問し自分に合ったカットを行っている。馴染みの場所がある利用者様はその場所で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は楽しく会話が出来るよう雰囲気作りに努めている。利用者様には出来る手伝いを行ってもらっている。	食事は業者に委託し、カロリー計算されたものが提供されている。調理は職員が行うため、同じ食事でも味が異なり、変化となっている。行事食(クリスマス・敬老会など)を取り入れ、おやつは手作りを行うなど、食事が楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量はチェック表で職員が把握している。水分はあるでも飲めるようにお茶をポットに入れてある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。介助が必要な利用者が多く一人ひとりに合わせたケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が一人ひとりのパターンを把握している。日中はなるべくトイレへ誘導しトイレでの排泄を促している。	自立の方は、さり気なくその状況を把握し、見守りを行い、それ以外の方は、ケアの手順書に基づき、排泄記録を確認し、トイレ誘導・介助などを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取や繊維質の食物に気を使っており毎朝体操を行っている。最近ではスムーズの排便が来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は入浴出来る様支援している。時間は午後に行っているが希望や状況に応じて入浴出来る様にしている。ゆっくり入れるように支援している。	入浴は週2回支援し、1日に3名がゆっくりと入浴ができるようにしている。普通浴槽とリフト浴槽があり、現状においては、主にリフト浴槽での入浴支援を行っており、困難な場合には身体清拭を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後ゆったりとした時間を設け安心して休めるようにしている。日中も状況に応じて休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は飲むまで確認している。変更があった場合は全員が共有出来る様に申し送りノートに記載し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった役割や楽しみを利用者と一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在では遠出の外出は積極的に出来ていない状況。天気の良い日に周辺の外出や外気浴は行っている。	利用者の重度化に伴い、外出できる方が少ないなかで、急な要望への対応は難しいが、本人の希望を受け、午前中は散歩に出掛けしている。また、それ以外の方は、日当たりのよいホールやベランダに出て日光浴をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は行っていない。希望があった場合は立て替えて対応している。物品の購入は職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や年賀状などの対応もその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	休息の出来るソファーや座敷は掘りごたつになっておりテレビを見ながらくつろげるようになっている。温度や湿度には注意を払い居心地よい空間を作っている。壁には利用者様作成のちぎり絵を展示している。	ホールや廊下は広く、利用者の作ったちぎり絵などの作品が飾られている。ホールでは、午前中に皆でレクリエーションなどを行い過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーで休息を行う利用者が多い。テーブル関で気のあった利用者と談話をしている事が多く見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やなじみの物を持ち込んで欲しいとお願いしているが現実には殺風景な居室になっている。テレビや仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。	居室入口には、その人に合わせた見やすい位置に表札(名札)を掲げわかり易いようにしている。また、プライバシーの観点から掲げていない方もいるなど、その人に合わせた環境づくりをしている。居室内は、使い慣れた寝具・仏壇などが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには表札を掲示している。安全性を考慮した環境作りに努めている。		